

- 1 課題名 漁場効果調査事業
- 2 区分 県単
- 3 期間 平成6年度～
- 4 担当 企画情報部 (小川満也、小久保友義)
- 5 目的

水産基盤整備事業に係る事業評価および今後の事業振興に資するため、魚礁漁場における漁獲量等の漁場効果を明らかにする。

6 成果の要約

(1) 試験方法

ア 熊野灘地区中層型浮魚礁 (白浜町～太地町沖合)

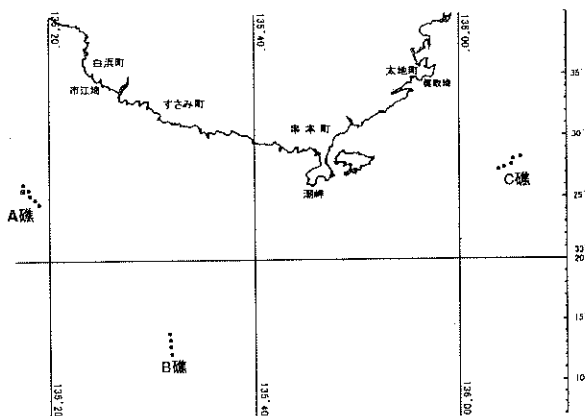


図1 中層型浮魚礁の設置位置

調査対象の中層型浮魚礁は、白浜町市江崎沖 (A礁)、串本町潮岬沖 (B礁)、太地町梶取崎沖 (C礁) の合計3カ所 (図1)、田辺漁協から宇久井漁協までの6漁協に所属する曳縄釣漁業者合計14隻による標本船調査を行った。調査期間は平成18年3～6月、このうち、串本、浦神漁協については戻りカツオを対象としたため平成17年11月～平成18年6月とした。

イ 日高南部地区人工魚礁 (印南町沖合)

調査は平成18年1月から12月にかけて印南町沖合の昭和48年、56年大型魚礁と日高南部地区人工礁を対象に、漁業無線により魚礁で操業している漁船の漁獲データを集積する方法 (以下利用船調査とする) で行った。

ウ 日置地区大型魚礁 (白浜町日置沖合)

調査は平成18年1月から12月にかけて白浜町日置沖合の大型魚礁で日高南部地区人工礁と同じ方法で行った。

(2) 成果の概要

ア 熊野灘地区中層型浮魚礁

標本船によるA礁域での操業は、3日・隻でカツオ246kg、その他 (シイラやキハダなど) 6kg、B礁域

では10日・隻でカツオ251kg、その他66kg、C礁域では8日・隻でカツオ241kgが漁獲された。この結果をもとに、漁協別の中層型浮魚礁での漁獲量を推定したところ、A礁域ではカツオ3.3トン、その他0.1トン、B礁域ではカツオ6.7トン、その他1.4トン、C礁域ではカツオ9.6トンであり、6漁協全体 (742トン) に占める中層型浮魚礁での漁獲率は2.8%となった。

イ 日高南部地区人工魚礁 (印南町沖合)

漁業者は、昭和48年大型魚礁では30日利用し、イサキを主体に374kg (444千円)、また、人工礁では145日利用で、イサキを主体に1,521kg (1,404千円) 漁獲した。印南町漁協のイサキ漁獲量 (10.5トン) に占める人工魚礁帯での漁獲量の割合は17%であった。遊漁船は、昭和48年大型魚礁で27日、昭和56年大型魚礁では5日、また、人工礁では64日の利用があり、一隻当たり4人の遊漁者、一人当たり11,000円の料金として、人工魚礁帯では4,224千円 (延べ384名) の収益と推定された。

ウ 日置地区大型魚礁 (白浜町日置沖合)

大型魚礁では、5～8月を盛期に165日の利用があり、イサキが3.2トン (2,191千円) 漁獲され、前年より1.7トン (1,358千円) 増加した。日置漁協のイサキ漁獲量14.6トン (10,646千円) に占める大型魚礁での漁獲量の割合は22%であった。

7 成果の取り扱い

(1) 成果の普及

これまでの成果は、中層型浮魚礁設置事業に取り入れられた。

(2) 成果の発表

平成18年度漁場効果調査報告書